



国東市指定無形民俗文化財

よる

お

の

こ

ども

じょう

おに

え

丸小野子 修正鬼会



丸小野子供修正鬼会

丸小野子供修正鬼会は、国東市武蔵町丸小野の柿園・仲西地区で行われる伝統行事です。

修正鬼会は正月の仏教行事である「修正会」と、国東半島地域で行われていた「鬼会」という行法が結びついてできたと考えられています。

かつては六郷山の各寺院で修正鬼会が行われていました。武蔵町丸小野にも六郷山寺院の医王山丸小野寺があり、明治時代のころまでは鬼会が行われていたと伝えられています。

丸小野子供修正鬼会は、地域の言い伝えによると江戸時代の天保年間（1830〜44年）に大飢饉が起き、食料不足に加えて伝染病が蔓延して子どもが次々と亡くなったため、村がある限り祈りを続けることを誓った村の大人たちが、丸小野寺の修正鬼会を模して、子どもの無病息災と火防、五穀豊穡を祈願するために始めたといわれています。

修正鬼会は六郷山の寺院の中だけで行われていたものではなく、一部の地域では集落の中でも行われていたようです。この武蔵町丸小野に残されている「子供修正鬼会」もその一例と考えられます。このように寺院だけの法会にとどまらず地域の行事にもなっていたことは、六郷山寺院と地域との結びつきの強さを示すものと考えられています。

明治時代の初めには約20の寺院で行われていた修正鬼会が、現在では国東市の成仏寺と岩戸寺、豊後高田市の天念寺の3カ寺でしか行われていません。その中でこの丸小野子供修正鬼会は、地域行事としての修正鬼会の姿を今に残す、貴重な伝統行事であるといえます。

以前は旧暦の1月15日に行われていましたが、現在は2月の第2日曜日の夕方6時ころから行われます。昭和59年9月21日に国東市の無形民俗文化財に指定されました。

福を招く国東の「鬼」

修正鬼会に登場する鬼は仏の化身とされています。松明をかざして参拝者を加持（災いを払うこと）し、家々をまわって酒食のもてなしを受けます。このように、国東半島地域の鬼は忌み嫌われる邪悪な存在ではなく、邪悪なものを追い払い、福をもたらす神聖な存在とされていることに特徴があります。

丸小野の子供修正鬼会でも鬼の役割は変わりません。子供鬼会では6人の鬼が登場し、松明をかざして参拝者を加持する「災払」を行います。さらに加持の輪に入れなかった参拝者のために「悪魔払」として、足元を松明であぶって無病息災を祈願します。



子供修正鬼会の面。上段は平成23年から使われているもの。下段はそれ以前に使われていたもの。



丸小野子供修正鬼会会場周辺図
(国東市武蔵町丸小野)



大石と稲荷様の祠

丸小野寺



タイアゲ

子供修正鬼会の会場

丸小野子供修正鬼会の会場は、座元宅と集落の上にある稲荷様の2箇所です。座元の座敷で盃の儀を行い、大松明（オオダイ）をかきついで稲荷様まで移動します。稲荷様は丸小野寺の対岸、柿園集落の奥の山中に祀られています。参道は急な斜面のため、大松明をかきついで登るのは一苦労です。参道を登りきると少し平地があり、そこで米華から悪魔払までの行法を行います。その奥の小高い所に大石があり、石の上に稲荷様の祠が祀られています。

地元の伝承では、かつてはこの大石を丸小野寺の講堂の本尊薬師如来に見立て、ここから講堂を拜んで鬼会を行っていたといわれます。稲荷様が大石の上に祀られたのは後のことのようにです。



鬼会の役付と準備

丸小野子供修正鬼会では、柿園と仲西の両地区が毎年交互に座元になって準備を行います。かつては旧暦2月20日(初午の日)に座元の家を決めていたといいますが、

現在は地区の中で順番を決めて座元を受け持ち、座元を中心に各役付を決めています。役付には、主に次のものがあります。

鬼

小学生の男子6名がつとめ、そのうち最年長者を荒鬼とします。昔は鬼をつとめるのは座元地区の5〜8歳の長男に決まっていたといわれています。

院主(いんじゅ)

丸小野寺の住職がつとめます。

盃人(さかづきにん)

お小僧とも呼ばれ、小さい子ども2名が選ばれます。盃人は修正鬼会では「盃の儀」の時に院主と鬼に酒を注ぐ役目ですが、丸小野子供修正鬼会では大人の盃介杓人(さかすきかいしやくにん)が代わりに酒を注ぐ仕草をし、子どもの盃人は院主の左右に座っています。以前は座元地区の1〜2歳の長男から選ばれました。

盃介杓人(さかすきかいしやくにん)

給仕人とも呼ばれ、大人2名がつとめます。

タイレ

大人6名がつとめます。「タイアゲ」の時に大松明(オオダイ)をかついたり、鬼の補助や行事全般の手伝いをします。ほかに行事全般の手伝いをする雑役があります。

昔は、これらの役付になるのは座元地区の各家の長男だけで、次男以下や養子は参加できませんでした。



鬼を背負うタイレ



院主と盃人



鬼役の子どもたち



大松明(オオダイ)



香水棒



鬼の面の準備

当日の朝、座元宅で、用具の準備が行われます。長さ3〜4メートルの大松明(オオダイ)や鬼とタイレが持つ小松明(コデ)、木の棒の皮を薄く削り、花びらのような形を3〜5段につくる香水棒などの製作、鬼会面の化粧など、修正鬼会に特徴的な用具が、この子供修正鬼会でも準備されます。

子供修正鬼会の行法

子供鬼会の流れは、川の水でのお清め(垢離取り)↓院主との結縁(盃の儀)↓大松明の献灯(タイアゲ)↓道場での立役↓参拝者の加持(災払・悪魔払)となっており、読経はありますが大まかには成仏寺や岩戸寺の修正鬼会と共通しています。

ただし、修正鬼会では垢離取りや盃の儀はタイアゲや鬼の介添え役のタイレが行い、立役は鬼役以外の僧侶が行うのに対し、丸小野子供修正鬼会ではすべて鬼役の子どもが行います。大人はタイアゲの時に大松明を担ぐ他は鬼の補助をします。



災払(さいばらい)



丸小野子供修正鬼会の日程

※ 時間は目安ですが1の「準備」(午後6時ごろ～)から10の「悪魔払」の終了まで約2時間30分かかります。

1 準備 (座元宅)

座元の家の庭で鬼役の子どもたちが装束をつけます。

午後6時30分ごろ～

2 垢離取り

鬼役の子どもたちが、川の水で体を清めます。



垢離取り

3 盃の儀 (座元宅)

座元で鬼と院主(僧侶)が盃を交わして結縁を結び、鬼会の無事を祈ります。ほら貝の合図で鬼やタイレたちは座元を出て大松明の所へ向かいます。



盃の儀

4 タイアゲ (参道～稲荷様)

火をつけた大松明(オオダイ)に院主が護身法を結び般若心経を唱えます。鬼とタイレは大松明をかついで行き、鬼会の会場に立てます。

5 米華 (稲荷様)

五穀豊穡を祈る儀式で、二人の鬼が片足を交互にあげて飛び跳ねます。参拝者には餅がまかれます。



米華

6 香水

仏に香水(仏に供える水)を捧げる儀式といわれ、鬼が二人組あるいは三人組になって、片足で跳ねながら香水棒を打ち合わせます。

7 災払鬼

鬼とタイレが交互に並んで輪を作り、小松明(コデ)を中央に向けて左右に3回ずつまわります。

8 三三九度の法

鬼とタイレが「オンニワヨー ライショワヨー」と囃しながら小松明を3回前後に振り、これを3回繰り返します。

9 災払

無病息災の加持の儀式です。参拝者が輪の中に入り、鬼とタイレが小松明を足元に向けて、左右に3回ずつまわります。

10 悪魔払

災払に入らなかった参拝者には、鬼が小松明で足元に火の粉をつけてまわり、無病息災の加持をします。



悪魔払



災払い鬼



お問い合わせ

国東市伝統文化活性化実行委員会

事務局：国東市教育委員会 文化財課

〒873-0504 大分県国東市国東町安国寺 1639-2

国東市歴史体験学習館内

TEL：0978-72-2677

FAX：0978-72-2505

祭りの参拝についての注意

祭りには、学術的な調査や記録以外、一般には公開されていない部分もあります。個人宅や屋内等で行われる非公開の行事には、関係者のみで行われる儀式や住民のプライバシーに関する事柄も含まれています。祭りの伝統やしきたりを尊重し、迷惑をかけることのないようにしましょう。また、神社仏閣での公開行事では、マナーを守って写真撮影等を行い、祭りの関係者や他の見学者に迷惑をかけることのないようにしましょう。